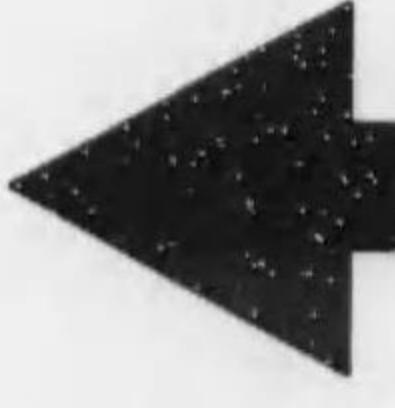


始



9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

特13

889

西行 樺



9月13
889

西行櫻

内之都卷之十ノ四

役

別

装

東

附

所

季



〔面〕舞尉 舞小尉にても 締 黒風折 白垂 着附厚板 色大
口 單狩衣 腰帶 扇 床几

大口僧

素袍男四五人

目番四	種別	山西都京	所季
(目番三)			
月	大正	5.4.7	内交

解說

始め囃子方座着き、作物引廻しがけ、シテ中に入りて大小前へ出し置く。

夫よりワキ出で、ワキ座に行き床几、狂言とセリフあり、右終つて次第打出す。

ワキツレ出で、舞臺に入り向ひ合ひ謡ふ。

ワキツレ表

『頃待ち得たる櫻狩』此處さらりと謡ふべし。名宣、道行同断。着詞済み、何れも橋懸へ行き狂言とセリフありて皆板付きへくつろぐ。夫よりワキ。サシを謡ふ

ワキツレ裏

『夫春の花は上求本來の……』此謡位あり。狂言のセリフ済み、

ワキツレ表

『およそ洛陽の花ざかり』と、氣を變へ謡ふ。

ワキツレ裏

『あの柴垣の戸を開き内へ入れ候へ』此詞は狂言へかゝり謡ふ。と、狂言ツレを呼び出す。

ワキツレ裏

『ツレ立ち向ふ。狂言サラ／＼と詞あり、ツレ何れも『櫻花咲にけらしな……』と、

ワキツレ裏

『あたら櫻の』と、此地しつとりとつけて謡ふ。此地の中にワキツレ何れも切戸より引き、作物

ワキツレ裏

『引廻し下す。

ワキツレ裏

『埋木の人知れぬ身と沈めども』此處位ありて謡ふべし。以下懸合種々緩急變化あれども

ワキツレ裏

『はづかしや老木の』此地静かにつけて謡ふ。『凡心なき草木』の所にてシテ、作物

ワキツレ裏

『計ひ謡ふべし。

シテ中『鳥林下に啼いて涙つきがたし』此所にてシテ、立ち、くつろぐ。

シテ裏

『それ朝には落花を踏んで……』此地はかゝつてつける。是より以下シテに種々形あれば見

シテ裏

『花に清香月に影春の夜の』と、序ノ舞。キリはシテに形多し、見計ひ謡ふ事勿論なり。

シテ裏『計ひ謡ふべし。

シテ裏

『鳥林下に啼いて涙つきがたし』此所にてシテ、立ち、くつろぐ。

シテ裏

『それ朝には落花を踏んで……』此地はかゝつてつける。是より以下シテに種々形あれば見

シテ裏

『花に清香月に影春の夜の』と、序ノ舞。キリはシテに形多し、見計ひ謡ふ事勿論なり。

時。まことにばくは様。トジラシテ
まくまく。あはれの事。まよも
まよかう。あがむ間。おもひ。お
おもひ。まよふ。まよふ。西行乃
まよまよ。まよまよ。すりて。くの鳥。歌
まよまよ。まよまよ。あたま

一
萬葉集
日和山。山。山。山。山。山。山。
あいや。山。山。山。山。山。山。山。
山。山。山。山。山。山。山。山。山。
山。山。山。山。山。山。山。山。山。
山。山。山。山。山。山。山。山。山。
山。山。山。山。山。山。山。山。山。
山。山。山。山。山。山。山。山。山。
山。山。山。山。山。山。山。山。山。

御内侍御の事
三月十七日

月夜の下代遠眺の如く。年々
彼うきよ経ゆ。之は乃夏も
よき宿度のわが風。アサ乃
秋とえまく。至るまで人間万事

こす
おはづく。アハはは。はなの。ちゆる
よきまく。ほのか。ゆす。種きる
よきやう。おあくび。ひよれ
よきやう。およき。洛陽の。感
り。よきく。よき。あく。あい。度
室れおお。一本。被りと

日
月
之
始
也
其
形
如
新
月
其
光
乃
微
明
也
不
以
爲
明
乎
其
形
如
满
月
其
光
乃
大
明
也
不
以
爲
明
乎
其
形
如
钩
其
光
乃
半
明
也
不
以
爲
明
乎

行のまゝづくべ
上りのまゝづくべ
ああきが
かくもとよひかくも
ほきながくも
ああきが
かくもとよひかくも
ほきながくも

てうすが薄あ
面はくとよひかくも
ああきが
かくもとよひかくも
ああきが
かくもとよひかくも
ああきが
かくもとよひかくも

理本のことをきめうりと實を
せれそをあきらめやうとと
まくこひはる乃そす。けりて梅
おもほはかげる。ヨクぬ
巣のえ、うきむすびひく。ゆく
はもあくつむわざく花めう

あ様乃。さくさくあらまわ
様めうきをさくく。月ある
よかのまかた家が路とて生て
修く。あすやうかのあらが
ちく。夜くさくらゆあらそ

かはまひるお
「上」
やくし夷ヤクシはやそりて、すみとて
まゆまゆのあらがまゆあくまゆあ
りゆゆせせき、ゆきあ

わくわくはくはくはく
不審フジンはくはくはくはくはくはく

とくとくはくはくはくはくはく

かくさむの草カクサムは乃、さくさくほほほの科

らあく、
「下」
あくあくはくはくはくはくはく

おくおくはくはくはくはくはく

めぐら様メグラヨウはくはくはくはくはくはくはくはく

精セイあくさくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

風が音羽
山門の前
鐘は夜の
鐘乃る。響く
お寺やな

情事中年才去乃古之明るさ
やうがまくのうめあ

着任權有所

大正五年四月

四日印刷
九日發行

東京市深川區西平野町一番地
著作者 寶生九

東京市日本橋區通四丁目八番地
發行者 江島伊兵

東京市日本橋區通四丁目八番地
發行所 榊屋謡曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎



終

